



2014年10月31日

各 位

会 社 名 アステラス製薬株式会社  
代 表 者 代表取締役社長 畑中 好彦  
コード番号 4503  
(URL <http://www.astellas.com/jp>)  
東 証 ( 第 一 部 )  
決 算 期 3月  
問 合 せ 先 広報部長 河村 真  
Tel : (03) 3244-3201

### アステラス製薬 2014年度第2四半期 決算説明会資料について

アステラス製薬株式会社（本社：東京、社長：畑中 好彦）は、2014年10月31日（金）14時30分より、証券アナリスト・機関投資家・報道機関の皆様向けに2014年度（2015年3月期）第2四半期（2014年4月1日から9月30日までの累計期間）の決算説明会を開催します。

同説明会の資料は別紙の通りですが、2014年度第2四半期決算の概況、2014年度通期業績予想並びに開発中新薬の進捗状況等についてまとめています。

以 上

# 2014年度第2四半期決算(IFRS) 概況

2014年10月31日  
アステラス製薬株式会社  
代表取締役社長  
畑中 好彦

## 注意事項

資料中の業績見通し数値及び開発見通し等の将来に関する記述は、当社が現在得ている情報をもとになされた当社の判断に基づくものであり、既知あるいは未知のリスクや不確実な要素を含んでいます。実際の結果は、様々な要因によりこれら将来に関する記述内容とは大きく異なる可能性があることをご承知おきください。そのような要因の例としては、経済情勢の悪化、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、新製品上市の遅延、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的財産権に対する侵害、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、これらに限定されるものではありません。

医薬品(開発中のものを含む)に関する情報が含まれていますが、その内容は宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。

# 2014年度第2四半期決算概況(コアベース)

				(億円)	
	2013年度 2Q	2014年度 2Q	増減率	2014年度 通期予想 (期初予想) #	進捗率
売上高	5,441	5,945	+9.3%	11,920	49.9%
売上原価	1,607	1,591	-1.0%		
売上高比率	29.5%	26.8%			
販売費及び 一般管理費	1,845	2,018	+9.4%		
研究開発費	904	970	+7.3%	1,980	49.0%
売上高比率	16.6%	16.3%		16.6%	
無形資産償却費	178	179	+0.9%		
持分法による損益	12	5	-53.5%		
コア営業利益	918	1,192	+29.8%	2,080	57.3%
コア四半期純利益	631	811	+28.4%	1,540	52.6%

償却費 [有形+無形]

・2014年度 2Q: 314  
・2013年度 2Q: 315

## ◆ 為替の状況

# 2014年5月 2013年度決算発表時公表

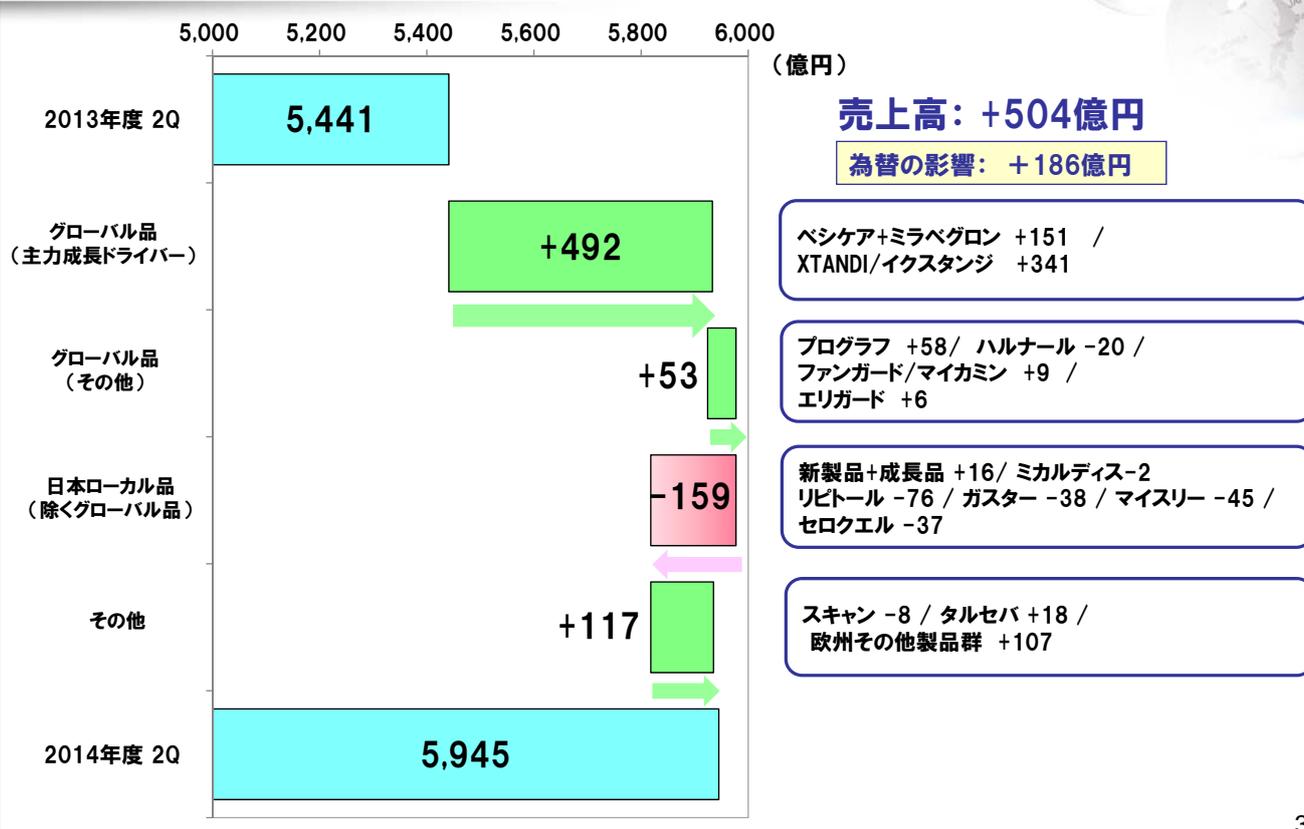
【期中平均レート】	2013年度2Q	2014年度2Q	変動	2014年度想定
ドル	99円	103円	4円安	100円
ユーロ	130円	139円	9円安	140円

【期首-期末の変動】	2013年度2Q	2014年度2Q
ドル	4円安	7円安
ユーロ	11円安	3円高

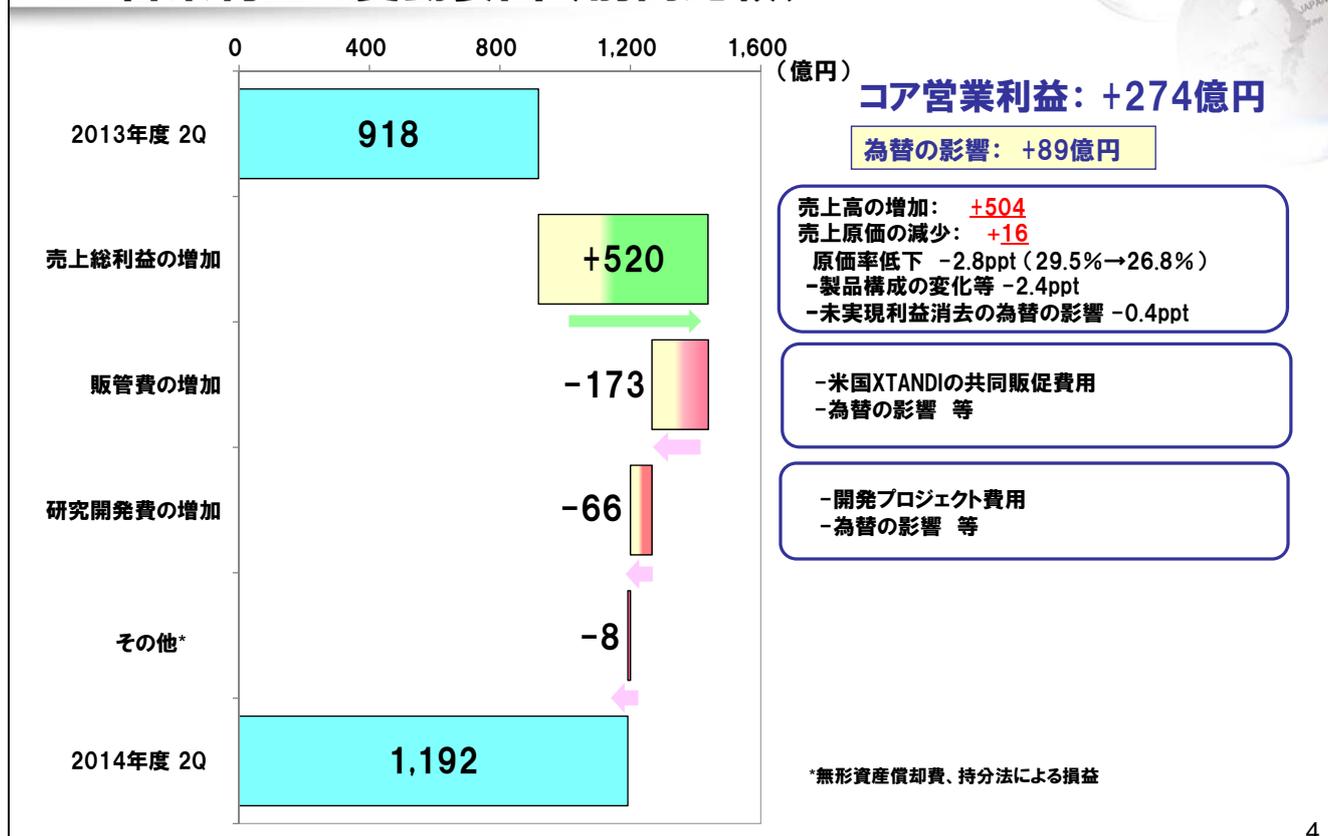
2

# 2014年度第2四半期業績： 売上高の変動要因(前同比較)



3

## 2014年度第2四半期業績： コア営業利益の変動要因（前同比較）



## 2014年度第2四半期決算概況(フルベース)

(億円)

	2013年度 2Q	2014年度 2Q	増減率
売上高	5,441	5,945	+9.3%
売上原価	1,607	1,591	-1.0%
売上高比率	29.5%	26.8%	
販売費及び 一般管理費	1,845	2,018	+9.4%
研究開発費	904	970	+7.3%
売上高比率	16.6%	16.3%	
無形資産償却費	178	179	+0.9%
持分法による損益	12	5	-53.5%
その他の収益	6	49	+674.3%
その他の費用	287	208	-27.3%
営業利益	638	1,032	+61.8%
税引前四半期利益	652	1,027	+57.5%
四半期純利益	456	700	+53.6%

その他の収益:49

- ・為替差益:17
- ・有形固定資産売却益:14

その他の費用:208

- ・リストラクチャリング費用:113  
うち、早期退職優遇制度の割増退職金:99  
(応募人数:約430名)

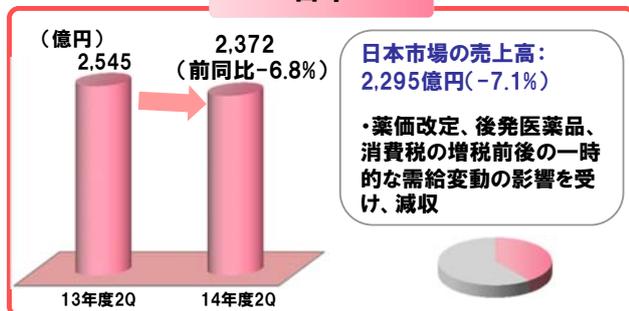
- ・無形資産の減損損失:83  
うち、コメンティス社提携:81(1Q計上)

# 地域別売上高(現地通貨ベース)

\*売上元会社の所在地に基づき集計

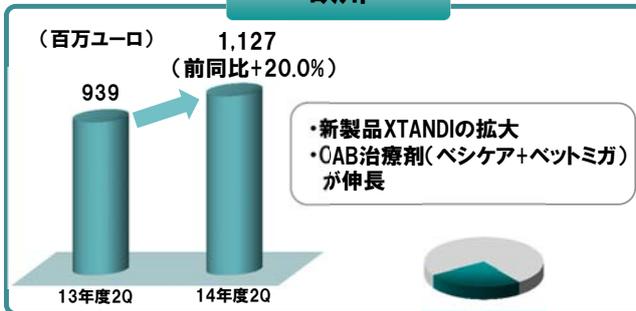
日本は減収だが、米州、欧州、アジア・オセアニアは引き続き成長

## 日本

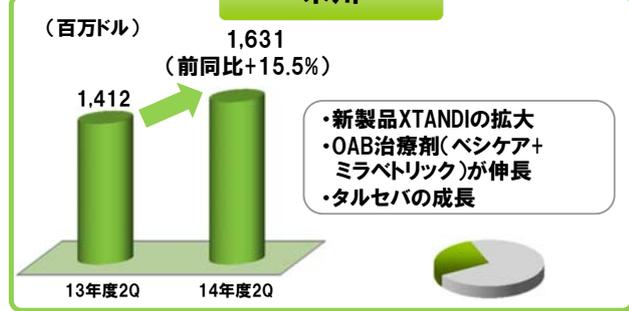


## 欧州

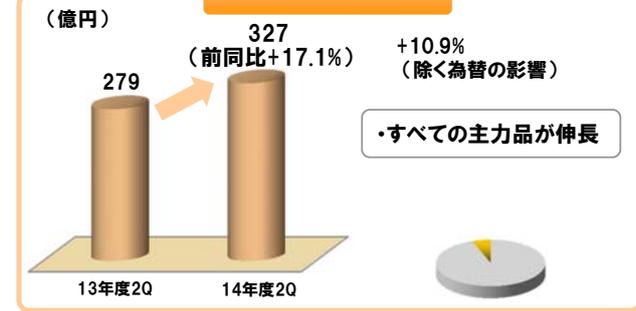
\*中東・アフリカを含む



## 米州



## アジア・オセアニア

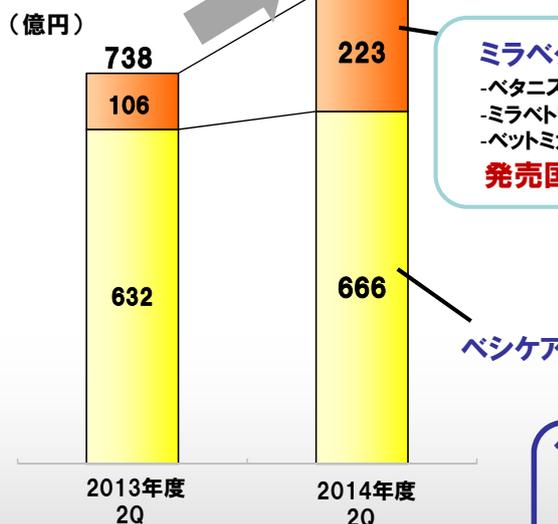


# 泌尿器OABフランチャイズ

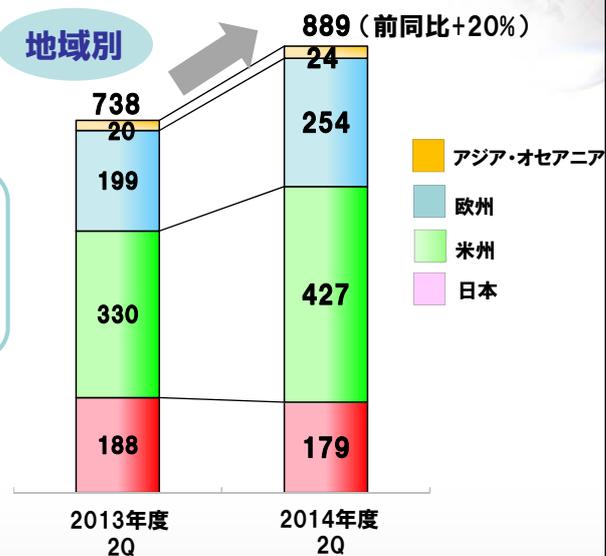
OAB(ベシケア+ミラベグロン)フランチャイズは引き続き成長

ベシケア、ミラベグロンの売上合計

製品別



地域別



ベシケア+ミラベグロンの成長率[前同比]

- 日本: -5%
- 米州: +24% (ドルベース)
- 欧州: +20% (ユーロベース)
- アジア・オセアニア: +16% (除く為替の影響)

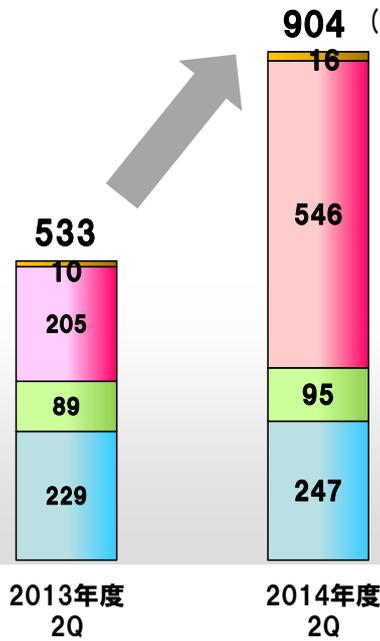
# がん領域フランチャイズ

XTANDI/イクスタンジの牽引により、がんフランチャイズは大きく拡大

XTANDI/イクスタンジ、タルセバ、エリガード、ゴナックスの売上合計

(億円)

- ゴナックス
- XTANDI/イクスタンジ
- エリガード
- タルセバ



**XTANDI/イクスタンジ**

- ・日本 56 億円
- ・米州 334 百万ドル
- ・欧州 104 百万ユーロ
- 発売国数: 26**

**エリガード**

- ・欧州 68 百万ユーロ
- 前同比 -0% (ユーロベース)

**タルセバ関連収入**

- 240 百万ドル
- 前同比 +4% (ドルベース)



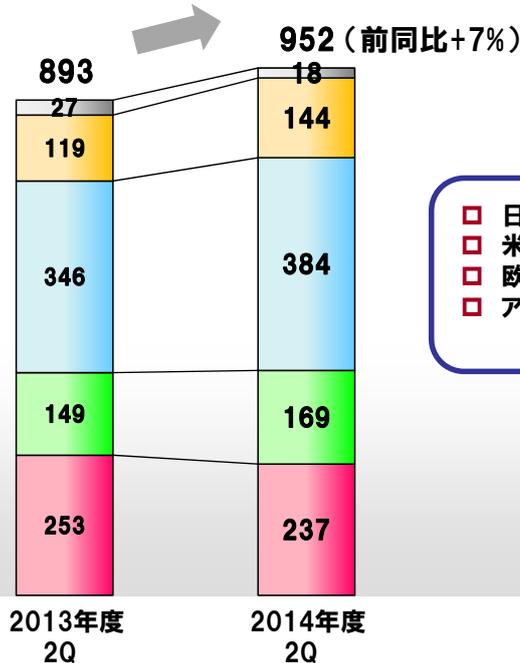
# 移植フランチャイズ

グローバル売上を維持

プログラフ、アドバグラフ/グラセプター/アスタグラフXLの売上合計

(億円)

- 輸出
- アジア・オセアニア
- 欧州
- 米州
- 日本



**日本: -7% [前同比]**

**米州: +9% (ドルベース)**

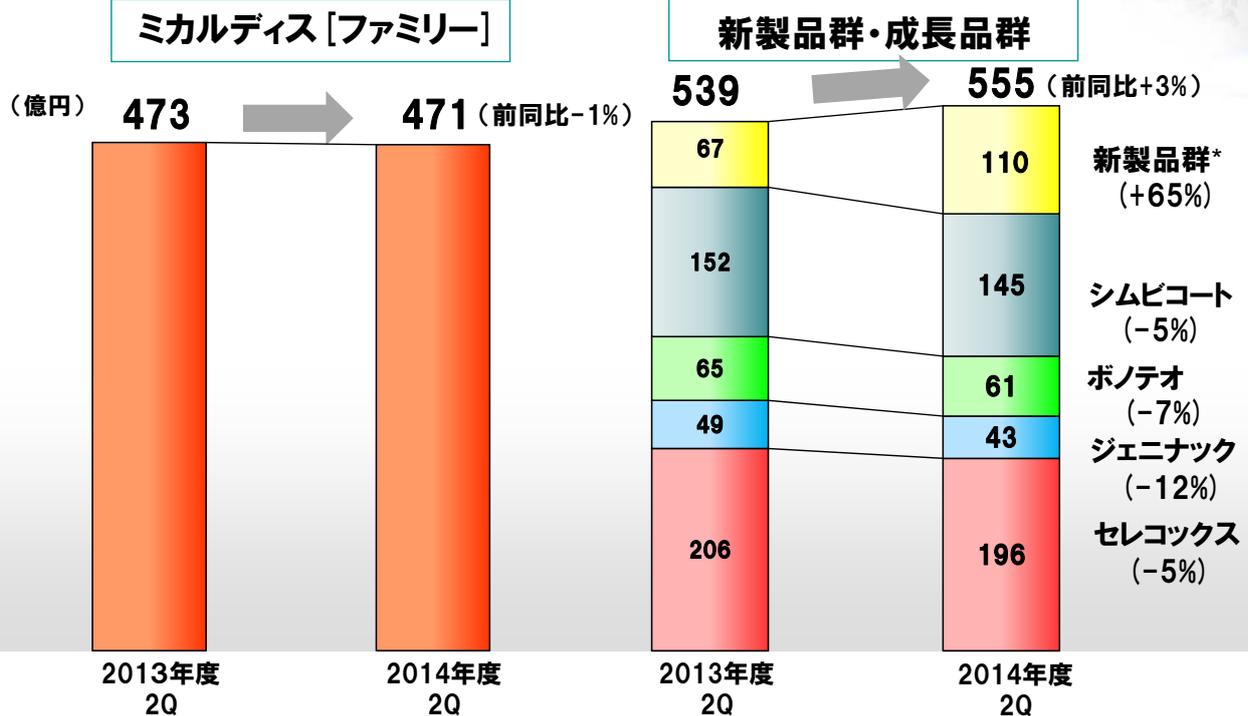
**欧州: +4% (ユーロベース)**

**アジア・オセアニア: +15% (除く為替の影響)**



# 日本 主要製品群(グローバル製品除く)

新製品の寄与が、成長品群の消費税の増税前後の一時的な需給変動による減少をオフセット



\*新製品群: 3年以内に発売した製品の合計売上(アーガメイト、キックリン、レグナイト、ゴナックス、シムジア、アコファイド、スーグラ) 10

# 2014年度通期業績修正予想(コアベース)

売上高、コア営業利益は上方修正、コア当期純利益は据え置き

	2014年度 期初予想	2014年度 修正予想	差異
売上高	11,920	12,100	+180
研究開発費 売上高比率	1,980 16.6%	2,000 16.5%	+20
コア営業利益	2,080	2,100	+20
コア当期純利益	1,540	1,540	-

□ 売上高は期初予想から上方修正  
【要因】  
 > 日本 約-250億円 (後発品の影響、成長品の下方修正)  
 > 米州 約+400億円 (XTANDI、スキャン、OAB製品、プログラフの上方修正)  
 [為替の影響: +85億円]

□ コア営業利益は期初予想から上方修正  
【要因】  
 > 売上総利益は期初想定を上回る  
 ・ 売上高は期初予想を上回る  
 ・ 原価率は期初想定を下回る: 製品構成の変化  
 > 販管費は期初想定を上回る: 米国XTANDI共同販促費の増加など  
 > 研究開発費は微増  
 [為替の影響: +8億円]

□ コア当期純利益は期初予想から据え置き  
【要因】  
 > 法人税等の負担率は期初想定を上回る

◆ 為替レート(期中平均)

ドル	100円	104円
ユーロ	140円	137円

◆ 2014年度3Q以降の為替レートの想定: 1ドル105円、1ユーロ135円

# 新薬パイプライン



## パイプラインの状況

### 第Ⅰ相試験

●	ミラベグロン (小児)
●	ASP5633
●	ASKP1240 (日)
●	AGS16M8F・AGS-16C3F
●	ASG-22ME
●	ASP1707 (前立腺がん、欧)
●	ASG-15ME
●	ASP2215
●	ASP5878
●	AMG 337
●	ASP8273
●	AGS67E
●	ASP9226
●	ASP3662
●	ASP7962
●	ASP3700
●	YM311 (日)
●	ASP3325
●	CK-2127107
●	ASP7657

### 第Ⅱ相試験

●	ASP4901 (AKP-002) (BPH、日)
●	ASP0113 (VCL-CB01) (臓器移植時CMV感染抑制、欧米)
●	ASKP1240 (移植、米)
●	ASP7373 (インフルエンザH5N1、日)
●	エンザルタミド (乳がん、欧米)
●	ASP8477 (神経因性疼痛、欧)
●	roxadustat (日)
●	YM311 (FG-2216) (腎性貧血、欧)
●	ASP1707 (子宮内膜癌、欧日)
●	リナクロチド (慢性便秘、日)
●	ASP7991 (副甲状腺機能亢進症、日)
●	ピキサロマー (顆粒製剤、日)
●	ASP8232 (糖尿病性腎症、欧、糖尿病黄斑浮腫：米)

### 第Ⅲ相試験

●	ソリフェナジン (小児、欧米)
●	ソリフェナジン/ミラベグロン (欧米並)
●	ASP0113 (VCL-CB01) (HCT時CMV感染抑制、欧米日)
●	フィダキソマイシン (感染性肺炎：日、小児：欧)
●	イサブコナゾール (カンジダ、米)
●	ASP015K (関節リウマチ、日)
●	エンザルタミド (MO CRPC、MO BCR：欧米並)
●	デガレリクス (3か月製剤、日)
●	rilotumumab (胃がん、日)
●	クエチアピン (双極性障害、日)
●	カブサイジン (糖尿病性神経因性疼痛、欧)
●	roxadustat (慢性腎疾患に伴う貧血、欧)
●	ペラプロスト ナトリウム (慢性腎不全、日並)
●	ピキサロマー (保存期慢性腎不全 高リン血症、日)
●	romosozumab (骨粗しょう症、日)
●	evolocumab (脂質異常症、日)
●	リナクロチド (便秘型IBS、日)

### 申請

●	ASP7374 (季節性インフルエンザ、日)
●	セルトリスマブ ペゴール (抗リウマチ薬未治療 関節リウマチ、日)
●	イサブコナゾール (アスペルギルス/ムーコル、米)
●	エンザルタミド (化学療法未治療 前立腺がん、欧)
●	エルロチニブ (小児、米)
●	ナテグリニド (DPP-4併用、日)
●	ラモセトロン (IBS女性、日)

\*効能追加ではないが、小児臨床試験実施要請書に対応するため、FDAに試験結果を提出した。

#### 疾患領域：

- 泌尿器疾患
- 免疫疾患(移植を含む)及び感染症
- がん
- 精神・神経疾患
- 糖尿病合併症及び腎疾患、その他
- 新規分子成分

## 2014年8月からの変化 <承認、進展>

### ■ 承認・添付文書の改訂(XTANDI/イクスタンジ、化学療法未治療)

製品名 (一般名)	適応症	地域	ステージ	変化
XTANDI/ イクスタンジ (エンザルタミド)	転移性去勢抵抗性 前立腺がん	米国	承認	2014年9月に化学療法施行歴の ない転移性去勢抵抗性前立腺がん 患者に対して適応症が拡大された。
	去勢抵抗性前立腺がん	日本	添付文書の 改訂	2014年10月に添付文書の改訂が 了承された*。

\*「効能・効果に関連する使用上の注意」から、「本剤の化学療法未治療の前立腺がんにおける有効性及び安全性は確立していない。」という文言を削除した。

### ■ 進展

製品名 (一般名)	対象疾患	地域	ステージ	変化
XTANDI (エンザルタミド)	アンドロゲン除去療法が無効で 化学療法施行歴のない成人男性に おける無症候性または軽度の症候性の 転移性去勢抵抗性前立腺がん	欧州	申請	2014年10月にCHMP が承認勧告を採択(効 能追加)。
タルセバ (エルロチニブ)	小児上衣腫	米国	—	2014年10月にFDAに 小児データを提出*。

\*効能追加ではないが、小児臨床試験実施要請書に対応するため、FDAに試験結果を提出した。



CHMP: 医薬品委員会

14

## 2014年8月からの変化 <ステージアップ、中止>

### ■ ステージアップ

開発コード 一般名	対象疾患	地域	ステージ	変化
MDV3100 エンザルタミド	非転移性生化学的再発 前立腺がん	米国/ 欧州/ アジア	P3	P3準備中。
ASP0456 リナクロチド	便秘型過敏性腸症候群	日本	P3	P3入り。
	慢性便秘	日本	P2	P2入り。
ASP8232	糖尿病性腎症	欧州	P2	P2入り。
	糖尿病黄斑浮腫	米国	P2	

### ■ 中止

開発コード	対象疾患	地域	ステージ	中止理由
ASP3652	膀胱痛症候群/ 間質性膀胱炎	欧州	P2	P2試験において期待された有効性の結果 が得られなかったため、開発を中止した。
		日本	P1	



15

# 抗がん剤パイプライン

最も開発の進んでいる地域のフェーズ

	プロジェクト	がん種	特徴	P1	P2	P3	申請
低分子	エンザルタミド (XTANDI)	前立腺がん (化学療法未治療、非転移性去勢抵抗性、 <b>非転移性生化学的再発</b> )、乳がん	アンドロゲン受容体阻害剤	化学療法未治療: 欧米日亜 非転移性・生化学的再発: 欧米亜 乳がん: 欧米			米国で承認 日本で添付文書改訂 欧州で申請
	エルロチニブ (タルセバ)	小児上衣腫	HER1/EGFRチロシンキナーゼ阻害剤	米国			小児データ提出*1
	デガレリクス (ゴナックス)	前立腺がん	日本初のGnRHアンタゴニスト	3M製剤: 日本			
	ASP1707	前立腺がん*2	経口のGnRHアンタゴニスト				
	ASP2215	急性骨髄性白血病	FLT3/AXL阻害剤				
	ASP5878	<b>固形がん</b>	<b>FGFR阻害剤</b>				
	AMG 337	胃がん	MET阻害剤	日本			
抗体	ASP8273	非小細胞肺癌	変異選択的不可逆EGFR阻害剤				
	rilotumumab AMG 102	胃がん	抗HGF抗体	日本			
	AGS-16M8F・AGS-16C3F	腎臓がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: ENPP3)				
	ASG-22ME	固形がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: ネクチン-4)				
	ASG-15ME	膀胱がん	ADC技術を活用した抗体 (標的: SLITRK6)				
AGS67E	悪性リンパ腫	ADC技術を活用した抗体 (標的: CD37)					

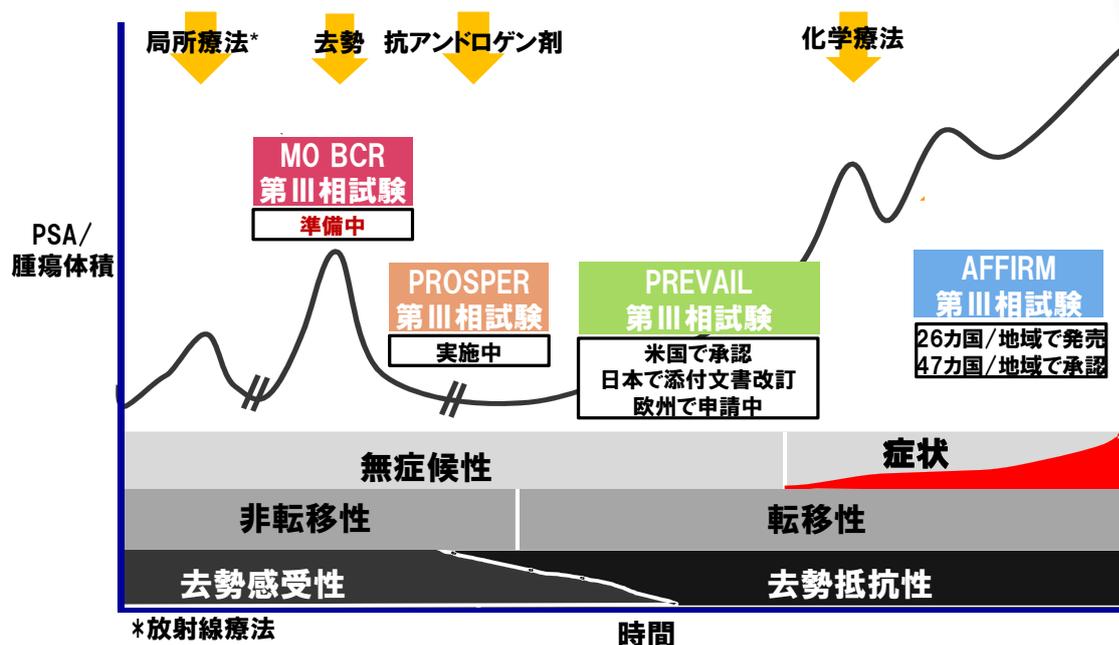
\*1: 効能追加ではなく、小児臨床試験実施要請書への対応  
\*2: 子宮内膜症でP2

# エンザルタミド: 開発の進展

\*試験を実施している地域

	試験 地域*/フェーズ	対象	デザイン	P1	P2	P3	申請
前立腺がん	欧米日亜 P3試験 [PREVAIL試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,717)	米国: 2014年9月 欧州: 2014年10月 日本: 2014年10月			承認 CHMPが承認勧告を採択 添付文書の改訂
	欧米亜 P3試験 [PROSPER試験]	MO CRPC 非転移性去勢抵抗性前立腺がん	プラセボ対照 (n=1,500)	患者組み入れ開始: 2013年11月			
	欧米亜 P3試験	MO BCR 非転移性生化学的再発前立腺がん	アンドロゲン除去療法、併用との比較試験 (n=1,860)	P3準備中			
	欧米 P2試験 [TERRAIN試験]	化学療法未治療 転移性去勢抵抗性前立腺がん	ピカルタミドとの比較試験 (n=375)	患者組み入れ終了: 2013年7月			
	米国 P2試験 [STRIVE試験]	化学療法未治療 転移性または非転移性去勢抵抗性前立腺がん	ピカルタミドとの比較試験 (n=400)	患者組み入れ終了: 2014年3月			
	米国 P2試験	ネオアジュバント療法 前立腺切除術実施前	単剤またはリュープロレリン、デュスタステリドとの併用 (n=50)	最終症例投与終了: 2013年11月			
乳がん	欧米 P2試験	トリプルネガティブ アンドロゲン受容体陽性のトリプルネガティブ進行性再発乳がん	オープン試験 (n=80)	中間成績を発表予定: 2014年12月			SABCS2014 (サンアントニオ乳がんシンポジウム)
	欧米 P2試験	ER/PgR陽性 エストロゲン受容体 (ER) 陽性またはプロゲステロン受容体 (PgR) 陽性でHER2正常の進行性乳がん	プラセボ対照、エキセメスタンとの併用 (n=240)	患者組み入れ開始: 2013年12月			
	欧米 P2試験	HER2陽性 HER2陽性でER陰性の進行性乳がん	オープン試験 (n=80)	患者組み入れ開始: 2014年9月			SABCS2014 試験デザイン (試験進行中)

# 前立腺がんにおけるエンザルタミドの価値最大化



PSA: 前立腺特異抗原

P. Mulders et al. EAU2012, modified by Astellas



# Evolocumab: 第III相YUKAWA-2試験の結果

## 試験デザイン

対象	心血管系リスクの高い日本人高コレステロール血症患者404例
デザイン	二重盲検試験
投与群	evolocumab皮下注射(2週に1回140mgあるいは毎月1回420mg) またはプラセボ皮下注射(2週に1回または毎月1回)、高用量または低用量のアトルバスタチンと併用
主要評価項目	・12週時点のLDLコレステロールのベースラインからの低下率 ・10週と12週時点のLDLコレステロールのベースラインからの平均低下率

## 試験結果

- ・2つの主要評価項目における目的を達成した。
- ・プラセボ投与群と比較し、evolocumab投与群におけるLDLコレステロールの低下率は臨床的に意義があり、統計的に有意であった。また、この結果は、日本で実施した第II相試験において同じ用量のevolocumabを投与した結果と一致した。
- ・安全性において、すべての投与群で大きな差異は認められなかった。すべてのevolocumab投与群合わせ2%を超えて発現した有害事象は、鼻咽頭炎、胃腸炎、咽頭炎であった。

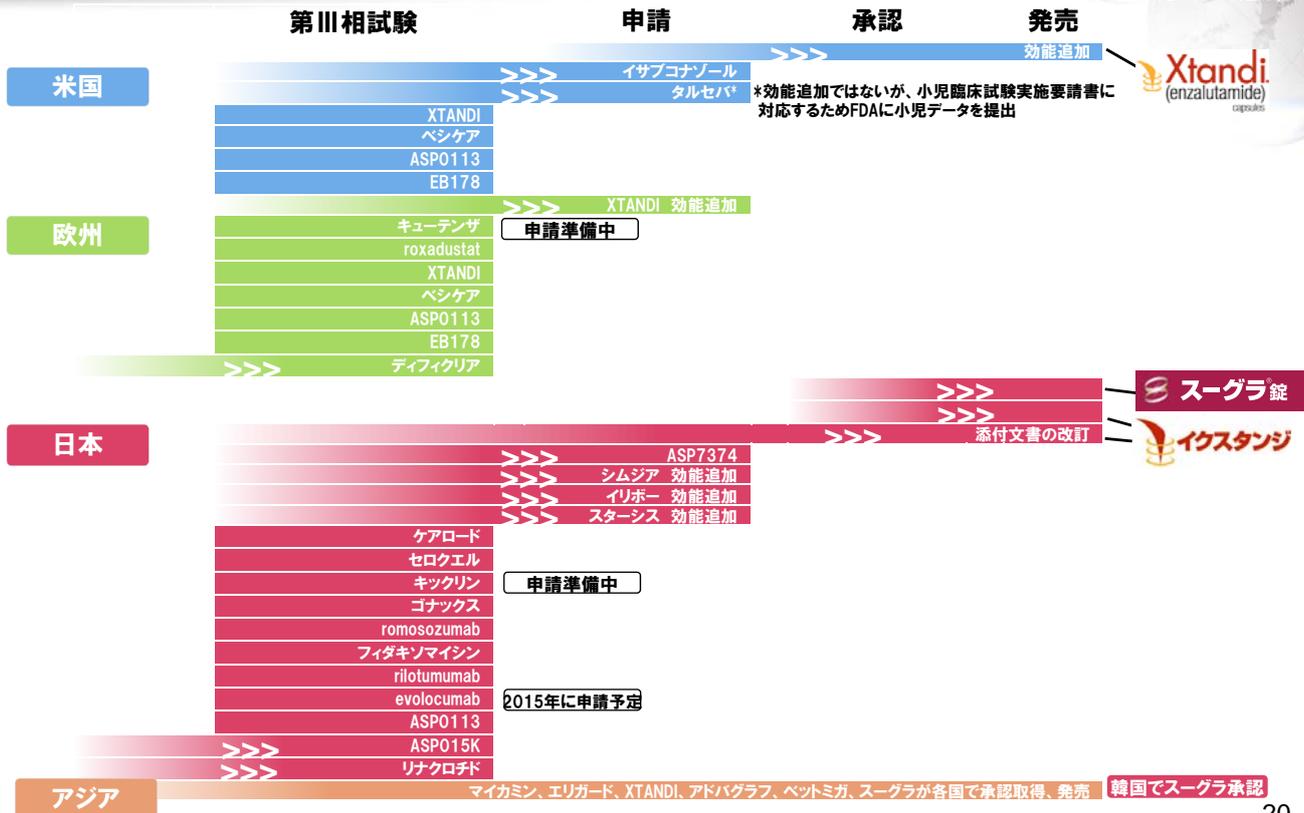
第III相YUKAWA-2試験の結果の詳細を今後開催される国際学会に提出した。

2015年に日本で承認申請を行う予定



# 2014年度 後期開発品の進展

>>>: 14年4月からの進展



## 継続成長に向けた取り組み

-Build Resilience for Sustainable Growth-

# 持続的成長に向けた戦略課題

事業環境の変化にしなやかに対応し、持続的な成長を目指す

新製品価値の  
最大化

新薬創出力の  
強化

Operational  
Excellenceの  
追求

成長戦略

効率化戦略



# 継続的な新製品投入（2014年4月以降の取り組み）

## ■4極における承認・発売（赤字：前回決算発表からのアップデート）

**【欧州】**  
ベットミガ、XTANDI、ベソムニの  
発売国数が順調に拡大  
➢ 6月 ドイツ  
ベットミガ発売

**【アジア・オセアニア】**  
➢ 4月 オーストラリア  
ベットミガ発売  
➢ 5月 台湾・マレーシア  
エリガード承認  
➢ 5月 香港  
マイカミン小児適応承認  
➢ 5月 フィリピン  
アドバグラフ承認  
➢ 6月 オーストラリア  
XTANDI承認  
➢ 6月 香港  
ベットミガ発売

**【日本】**  
➢ 4月 スーグラ発売  
➢ 5月 イクスタンジ発売  
➢ 10月イクスタンジ 添付文書改訂\*

**【米州】**  
➢ 4月 アルゼンチン  
XTANDI発売  
➢ 9月 米国  
XTANDI  
化学療法前適応承認

**【シンガポール・マレーシア・フィリピン・韓国】**  
➢ 6月 シンガポール  
マイカミン発売  
➢ 7月 マレーシア  
マイカミン発売  
➢ 8月 フィリピン  
エリガード承認  
➢ 9月 韓国  
スーグラ承認  
➢ 9月 シンガポール  
ベットミガ承認

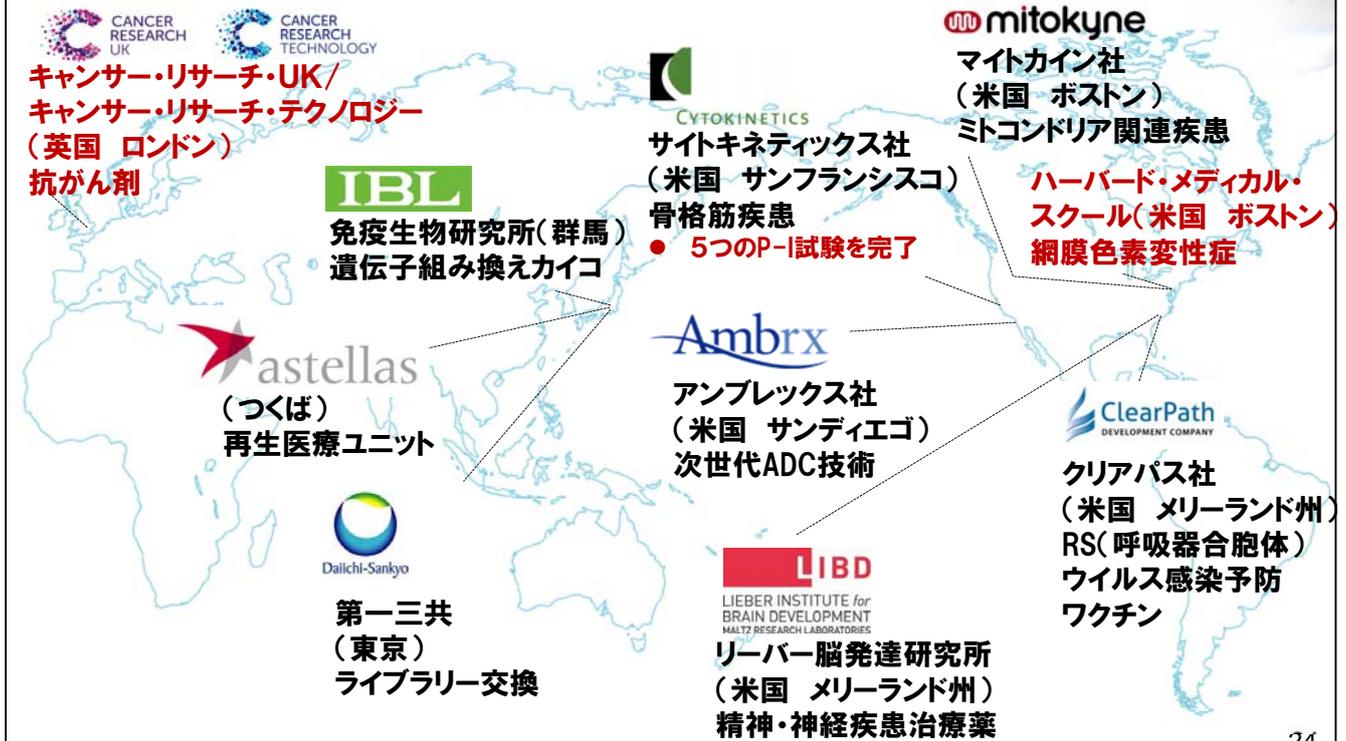
発売国数	
ミラベグロン:	27
XTANDI:	26

\*「効能・効果に関連する使用上の注意」から、「本剤の化学療法未治療の前立腺がんにおける有効性及び安全性は確立していない。」という文言を削除した。

# 新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦

(赤字:前回決算発表からのアップデート)

## ネットワーク型研究体制(Best Science, Best Talent, Best Place)で挑戦



## 新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦： 最近の取り組み (1)

### キャンサー・リサーチ・UK/キャンサー・リサーチ・テクノロジーとの 共同研究(2014年8月締結)

- オートファジー\*研究における世界的な権威であるKevin Ryan教授とSharon Tooze博士が主導。
- オートファジーとがん細胞増殖の関連性に着目し、すい臓がんに対する有望な治療につながるオートファジー制御因子を特定し、検証。
- 本成果に基づき、すい臓がんを含む様々ながんの治療につながる抗がん剤の創製を目指す。

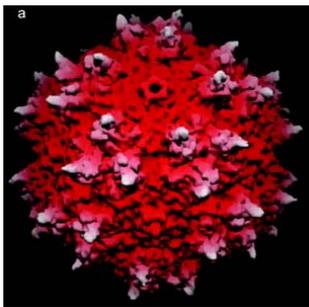


# 新たな疾患領域や創薬基盤技術への挑戦： 最近の取り組み（2）

## ハーバード・メディカル・スクールとの共同研究（2014年10月締結）

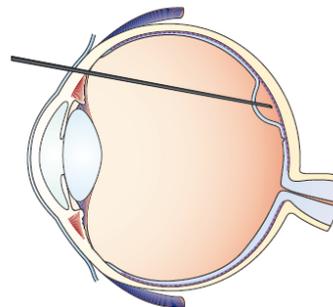
- 眼科領域における遺伝子治療の世界的な権威であるConstance L. Cepko教授が主導。
- 病態関連遺伝子を同定し、アデノ随伴ウイルス技術を用いて検証。
- 網膜色素変性症に対する遺伝子治療も視野に入れた新規治療法の確立を目指す。

アデノ随伴ウイルスの構造



Xie et al., PNAS 2002 Vol. 99 (16):10405-410

網膜下へのウイルスの投与



Mingozzi and High, Nat Rev Genet. 2011 Vol.12 (5):341-55.



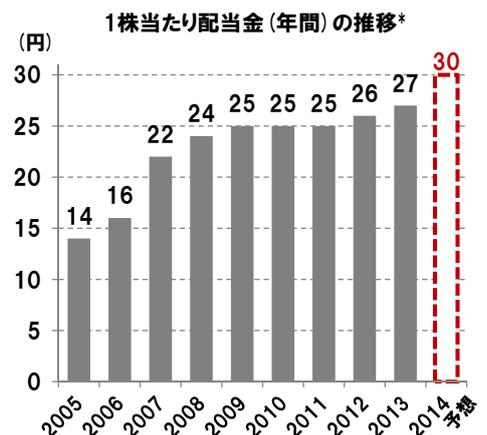
# 利益配分等に関する方針に基づく増配

- 利益配分等に関する方針
  - ✓ 成長を実現するための事業投資を最優先
  - ✓ 中長期的な利益成長に基づき、配当は安定的かつ持続的に向上
  - ✓ 自己株式取得は機動的に実施

上記の方針に基づき、また通期業績予想及び財務状況等を総合的に勘案し、  
期末配当予想を期初から1円増配

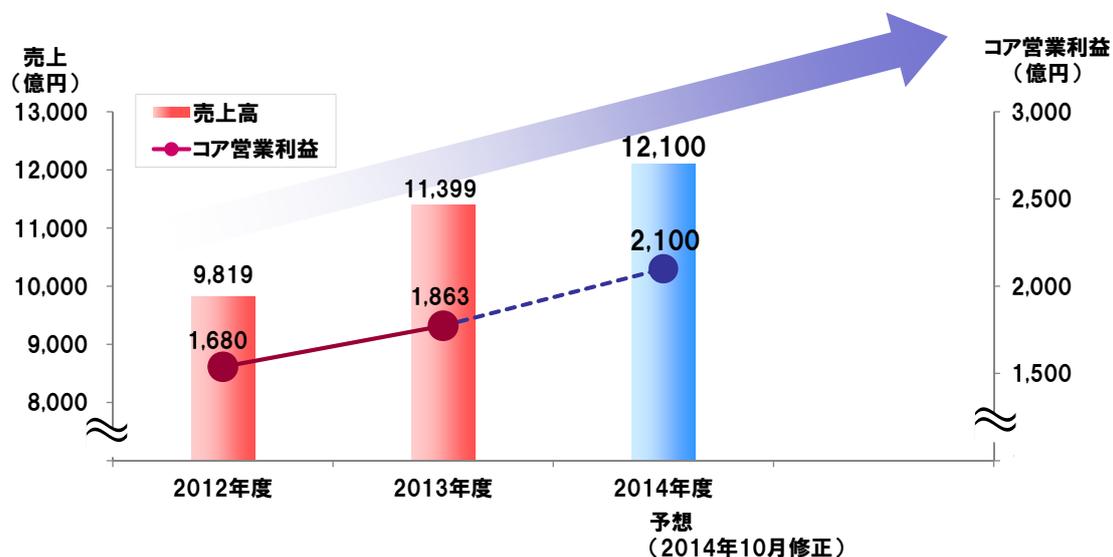
	1株当たり配当金			
	2013年度	2014年度		
	実績*	期初予想	実績	今回修正 予想
第2四半期末	13円	14円	14円	-
期末	14円	15円	-	16円
年間	27円	29円	-	30円

\*2014年4月1日を効力発生日として実施した株式分割(5分割)後ベースで算定



# 持続的な成長の実現

事業環境の変化にしなやかに対応し、持続的な成長を目指す



## 参考資料

# 利益配分等の推移

## 利益配分等に関する方針を着実に実行

	2012年度	2013年度	2014年度	
	実績	実績	期初予想	今回修正予想
コアEPS*	51.73円	59.11円	69.02円	69.65円
一株配当	26円	27円	29円	30円
ROE*	8.0%	7.4%	—	
DOE*	5.2%	5.0%	—	
自己株式取得 (単元未満株式買取分を除く)	54百万株 (494億円)	25百万株 (300億円)	機動的に実施 23百万株(300億円) (2014年5月から6月に実施)	
自己株式消却	—	55百万株	25百万株 (2014年5月に実施)	

\*IFRS

注1)2014年4月1日を効力発生日として普通株式1株を5株に分割する株式分割を考慮した数値  
(2012年度、2013年度の数値は便宜的に株式分割後ベースに引き直して記載)

注2)2014年5月から6月に実施した自己株式取得を2014年度コアEPS予想に反映



# 「コア」利益の定義

会社の経営における経常的な収益性を示す指標として各種コア利益を定義



# フルベースからコアベースへの調整表

(億円)

科目	15/3期 2Q		
	フルベース	調整	コアベース
売上高	5,945	-	5,945
売上原価	1,591	-	1,591
売上総利益	4,354	-	4,354
販売費及び一般管理費	2,018	-	2,018
研究開発費	970	-	970
無形資産償却費	179	-	179
持分法による損益	5	-	5
その他の収益 *1	49	-49	-
その他の費用 *1	208	-208	-
営業利益	1,032	160	1,192
金融収益 *2	23	-10	12
金融費用 *2	28	-26	2
税引前四半期利益	1,027	176	1,202
法人所得税	327	65	392
四半期純利益	700	111	811

\*1: コアベースの実績からは「その他の収益」及び「その他の費用」は除外されています。

「その他の収益」及び「その他の費用」には、有形固定資産の除売却に伴う損益、その他の無形資産の減損損失、リストラクチャリング費用のほか、為替差損益などが含まれています。

\*2: 「金融収益」と「金融費用」の内、売却可能金融資産の売却に伴う損益や減損損失は、コアベースの実績からは除外されています。